



農業の雑草対策には除草剤やマルチフィルムが使われますが、環境への配慮や廃プラスチックの問題から物理的な雑草対策が求められています。今回は諫早湾干拓地でのキャベツの栽培初期における機械除草の効果と植物体への影響を調べました。

使用した機械は、歩行型管理機に除草装置（K社製HLLUB12+R2+ON3）を装着し、2条のあぜを同時に除草します。除草装置に除草用針金を装着。機械を走行させる（A）び、あぜの表面が攪拌（かくはん）され、雑草が引き抜かれます。同機を使った10ア当たり作業時間は、約15分で完了します。

雑草の発生は、植え付け後2週間目から6週間程度まで1週間ごとに機械で除草作業をする（A）び除草剤処理と同程度に抑

諫早湾干拓地 キャベツ栽培初期除草

土壌表面を機械攪拌 10ア-15分で作業完了

えることができず。植え付け後76日目の生育量も同程度でした（表）。

なお、初期除草は定植した苗が抜けないように、苗が活着す

各除草処理に対するキャベツの生産量と雑草量

定植後日数	39日目		43日目		76日目		77日目	
	付	11/13	付	11/17	付	12/20	付	12/21
調査項目	全量 ^z (g)		雑草量 ¹ (g/m ²)		全量(g)		雑草量(g/m ²)	
1週間ごと処理 ^x	187ab		21 a		803 a		100 a	
2週間ごと処理 ^w	173 b		35 a		780 a		116 a	
除草剤処理	220 a		35 a		836 a		153 a	

z:全量は各調査区20個体の平均値、雑草量は3区の平均値
 y:列間で異なる文字間では危険率5%で有意差あり(Tukey)
 x:1週間ごと処理の処理日は、10/19、10/26、11/2、11/9、11/16の5回
 w:2週間ごと処理の処理日は、10/19、11/2、11/16の3回

る定植後2週間後から開始し、さらに雑草が子葉展開時期の小植物の時に除草が必要です。雑草が目視できない場合でも除草することが可能になります。

（長崎県農林技術開発センター 干拓営農研究部門主任研究員 宮寄朋浩）